

“晴耕雨読”ぶどう園

9年前、故郷の山梨市で23アール（2.3反）のブドウ園を借りることができたので、単身引越してアパート住まいでブドウ栽培を始めました。元々ブドウ農家育ちの私は子供の頃から手伝わされていたので栽培の知識が多少はありました。借りたブドウ園にはラッキーなことに人気のシャインマスカットの幼木が育っていました。ホームページ作りのスキルもあったので、『“晴耕雨読”ぶどう園』のタイトルでホームページも立ち上げました。あこがれの“晴耕雨読＝悠々自適生活”に期待を込めて名付けたのです。裏を返せば、「一生懸命にはブドウ作りはしません」とのリタイアードの矜持もあり（笑）、「楽しみながらやります」とのアピールなのです。

折角のホームページなので、ブドウ栽培の様子他に趣味のアクティビティーも写真メインで載せることにしました。今年はどうとう古稀ジイサンになったのに、相も変わらず大型バイクのこと、旅行、登山、ハイキング、etc.、更には6年前の心臓大手術からの闘病記と多彩です。また、“社説”と称して世の中の憤慨する事象を中心に個人意見を述べています。世間はFacebook等々SNS全盛時代で、多くの人々が情報・意見を発信しています。マア、私の“社説”は単なるジイの遠吠えではありますが。

ホームページにはシャインマスカット直販のサブページも作りました。最初は、友人・知人・親戚からだけの注文でしたが、ネットサーフィンの結果からか、見ず知らずの人が見つけてくれて、注文が来るようになりました。今年注文頂いたものの中には、「HPのタイトルがいいですね、余裕ある気持でブドウを育てるといい物ができる気がします」、との望外の嬉しいコメントもありました。でもやっぱり実際は、農作物は手をかければかける程よいものができる、ことは9年の実践で学んでいます。

日本有数のブドウ・桃の産地山梨市はふるさと納税返礼品で人気が高く、毎年納税額が伸びています。そこで、友人や近所のブドウ農家5戸をオーガナイズして、今年、ふるさと納税返礼品提供者募集に応募したところ採用されました。商店系の提供者に対抗して、「農家直送シャインマスカット」を謳ってふるさと納税サイトに載せました。ところが注文が思ったようには伸びません。そこで、「完熟シャインマスカット」を謳って10月収穫・出荷とし、「感動の甘さを体験ください」とのキャッチコピーを掲げたところ、驚異的に注文が来て、遂にはある時期我々の「完熟シャインマスカット」が山梨市の返礼品で人気第一位に登りつめました。まさかそこまで行くとは夢にも思いませんでした。

返礼品には品質の良いブドウしか出せません。ブドウの良し悪しはそのシーズンの天候に大きく左右され、私の園では、返礼品や直販にかなう秀品質（高品質）のブドウ割合は年により70%～30%と大きくブレます。勿論、秀品質未満のブドウもそれなりの評価となり、安値とはなっても市場流通はします。私は我が園の今シーズンのシャインマスカット秀品質割合を40%と低めに予想して、

ふるさと納税返礼品の「完熟」提供数量を設定しました。思いがけない大人気で注文が殺到し、収穫を始める前に限度数量に達しました（売り切れました）。ところが、7月の長梅雨と9、10月の長雨により今年のシャインマスカットは病気（晩腐病）発生の大きなダメージを受けました。わざわざ10月の遅くまで残すことは完熟になり糖度は増しますが、台風・病気発生等大きなリスクがあります。今年、台風の直撃はありませんでしたが、長雨・大雨の影響による病気発生は想像を超えていて、10月上旬にはノンデリ（供給未達）を起こす恐れを感じました。正に収穫を見越した先物取引であり、不作によるノンデリを起こす恐怖です。

それにより、申し訳ありませんでしたが新規の直販注文は一切止め、ふるさと納税返礼品受注残の出荷に全力を挙げることにしました。毎日が畑のブドウ残数量と受注伝票残数の受給計算です。そして10月下旬、収穫最後になってみると秀品質シャインマスカットもぎりぎりでも何とかつながりやっとのことでノルマ達成ができました。ふるさと納税返礼品提供という今シーズンのこの貴重な経験を来シーズンに生かし、更に参加農家を募ってやって行きたいと前向きに考えています。私のブドウ栽培はもう晴耕雨読の呑気気分ではなくなるのか心配もありますが、趣味にも大いにいそしみ残り人生を楽しく送りたいと考えています。



2020年



2018年